

大学カフェを拠点にした地域の「好き」の循環づくり

NPO法人 ten to ten

【はじめに】

施設をつくり、運営の仕組みを整え、イベントなどを実施する。まちづくりの現場では、まずそのような「器」づくりがスタートとなります。一方で、その器を生かして、地域にどのような良い変化を起こせるだろうかと悩んでおられる方も多いかと思います。

本稿で紹介するten to tenの取り組みは、2019年に室蘭工業大学が呼びかけた「室工大カフェプロジェクト」から生まれました。学生、卒業生、地域住民などが集まり、カフェのコンセプトやあり方を検討し、最終報告会を経て、2021年3月にプロジェクト参加者を中心にNPO法人ten to tenを設立しました。同年9月には、学内にカフェTENTOをオープンし、現在その運営を担っています。

ten to tenは、学内カフェTENTOを拠点に、地域の「好き」(=得意・楽しみ・愛着・貢献など、その人・団体が大事にしている前向きなものの総称)を増やし、地域課題の解決と地域の希望につながることを目指しています。本稿では、その仕組みの要点を、読者の皆さまの地域にも置き換えやすいように整理します。



ten to ten設立時の集合写真（オープン前のTENTOにて）

【人口減少局面で必要になる循環の考え方——「好き」から希望まで】

室蘭市の人口は、1970年の約16万人をピークに、現在では約7万人と半分以下の規模になっています。人口が減少していく局面では、担い手不足や地域経済・公共サービスの縮小などが起こり、地域の空気も暗くなりがちです。

だからこそten to tenでは、地域が暗くならず、明るく希望が持てる状態をつくるために、地域資源を活用するだけでなく、人々のつながりや行動が続いていく仕組みを整えることが大事だと考えています。目指しているのは、地域の「好き」がきっかけに、つながりが増え、次の行動が生まれ、地域課題の解決と地域の希望の双方につながっていく状態です。ここでいう希望とは、取り組みの成果が少しずつ見えてくることで、「室蘭の未来は明るい」と感じる人が増えるような、前向きな見方が地域に広がっていく状態です。

もう一つ大事にしているのは、誰かの「好き」に触れて元気づけられたり助けられたりした経験が、「今度は自分も、別の誰かに何かを渡してみよう」という気持ちにつながることです。この二つが重なることで、つながりと行動が連鎖しやすくなると考えています。

この「好き」の循環を生み出すために、ten to tenでは主に、「カフェ」、「イベント」、「企業との共創パートナー事業」の3つの取り組みを進めています。

【3つの取り組みとその意図】

(1) カフェ

カフェTENTOは、ten to tenの拠点であり、地域の「好き」に出会うための入口です。特別な場所ではなく、食事や休憩といった日常的に立ち寄れる場所であることで、つながりの土台になると考えています。

TENTOはカフェであると同時に、イベントや企業との共創パートナー事業の場としても機能します。配置を変えられるテーブルなどにより、ライブや講演、ワークショップなどに対応でき、くつろいで飲食できることで、交流や対話が生まれやすい点が強みです。

また、企業からのクーポン発行や店内広告等により学生が地域企業を知る場としても機能しています。

運営では、できるだけ地域食材を扱い、地域事業者との



地域食材を生かしたホットサンド

接点を増やすことを意識しています。

「好き」の循環の兆しとしては、スタッフの日々のコミュニケーションが次のイベントの相談や、新たな商品開発の企画につながる場面が増えてきています。

(2) イベント

イベントは、地域で活躍する人や団体が持つ「好き」を、学びや体験の形で共有し、参加者同士のつながりを生む取り組みです。

企画では、地域の資源や人材の「好き」を生かしているか。もう一つは、地域課題の解決に寄与するテーマとなっているかを重視しています。たとえば、子育て世帯の孤立の解消や、地方都市でも文化的なものを享受できる状態をつくることなど、この地域に必要なイベントとは何かを意識しています。

当日の運営では、誰かと話したり、一緒にやってみたりすることで、次のつながりの芽をつくるため、参加者と講師、参加者同士の交流が生まれているかを大事にしています。また、大学カフェという場の特性(ゆるい交流や学びの場)を生かし、イベント終了後も会話や相談が続くような場づくりを意識しています。

「好き」の循環の兆しとして、参加後に講師の別のイベントへ参加する人が現れたり、参加者同士が次の企画を提案し合ったりと、次へのつながりが見られています。



カフェ店員体験イベント後の集合写真

(3) 企業との共創パートナー事業

企業との共創パートナー事業では、学生や地域の人々が地域企業の存在や価値を知り、関わるきっかけが増えること、そして企業側にとっては、学生や来店者との接点を通じて、本業を生かした地域課題解決の可能性を探っていくことをねらっています。

この事業は、企業の存在を知る → 企業の価値を知る → 企業が学生と交流することによる新しいアイデアの獲得、という流れで組み立てています。あわせて、地域課題解決に取り組む企業の姿を学生が身近に感じることで、「こうした魅力的な会社で働きたい」という意識が自然に生まれることも意図しています。

共創イベントでは、本業を生かした地域課題解決のためのイベント(大工さんと親子、学生が交流するイベントなど)や、学生の就活のためのイベントなどを共催しています。

「好き」の循環の兆しとして、「学生目線でホームページを更新できた」、「学生がインターンシップに来てくれた」、「地域課題解決のためのイベントを開催することができた」などの声を企業からいただいています。



共創イベントで企業と学生が交流している様子

【それぞれの地域への置き換え方】

ここまで述べた仕組みは、室蘭や大学に限られたものではないと考えます。地域の資源や状況に合わせて、①日常的に立ち寄れる拠点はああるか、②地域の企業や団体、個人が持つ「好き」を共有できる学びや体験の場をつくれるか、③関わりが次の行動につながる流れを意識できるか、の3点を考えることで、それぞれの地域でも「好き」の循環づくりに取り組みやすくなると思います。

私たちten to tenもNPO設立から5年が経ちましたが、まだ試行錯誤しながら、まちづくりの芽を育てている最中です。多くの地域で、「このまちの未来は明るい」と感じる人が少しずつ増えていくことを願っています。



NPO法人 ten to ten

<https://npotentoten.wixsite.com/tentotenwebsite>

https://www.instagram.com/tentoten_tento/